

## AXIS GALLERY

### 「SPEED FLAT 2017」開催のお知らせ

アクシスギャラリーでは、未来のものづくりのあり方を考えるプロジェクト「SPEED FLAT 2017」を開催します。

「SPEED FLAT」は、製法や工程、またはテーマインスピレーションから、素早くモノを創造することを産学で研究する取り組みです。デザインの未来を展望するプロジェクトとして、賛同する団体と共に継続的で発展的な研究活動を行っています。本展では、金沢美術工芸大学、首都大学東京、多摩美術大学、法政大学の各研究団体が設定したテーマからイメージネーションを膨らませたデザインをプレゼンテーションします。

本展を通じて私たちの世代がまもなく遭遇するであろう「新たな産業革命」に向けた未来のものづくりのあり方について考えていただければ幸いです。

アクシスギャラリー

#### イベント概要：

□名称：「SPEED FLAT 2017」

□日時：12月6日(水)～10日(日) 11:00～19:00(最終日は18:00まで)

・エンディングレセプション(エンディングイベント)：12月10日(日) 16:30～18:00

□会場：アクシスギャラリー(東京都港区六本木5-17-1アクシスビル4F)

□入場料：無料

□参加団体：金沢美術工芸大学、首都大学東京、多摩美術大学 / プロダクト・テキスタイル、法政大学

■本件に関するお問い合わせ：アクシス 佐野恵子

Tel.:03-5575-8391、Fax:03-3583-0199 E-mail:sano@axisinc.co.jp



SPEED FLAT2017の各団体によるテーマ

縫うの先

多摩美術大学生産デザイン学科プロダクト専攻

SPEEDYに生産できること、FLAT(平面体)から展開できることは、時間短縮、運搬収納性、自動生産といった様々な側面から新しいモノの可能性を創るだろう。FLAT(平面体)を3Dに立ち上げる際には、接合が1つの大事なファクターになる。SPEED FLATの思考を拡げていく、可能性や領域を考えていく切り口として「縫うの先」という副題を設定し、加工/接合方法の探求を行っている。研究の成果を、FURNITUREを主としたアイテムに展開した。



孫ヲ想フ

金沢美術工芸大学ファッションデザインコース大学院・ファッションデザイン造形表現科目 (ファッション) 学部 SP研究会

50年後の未来を舞台とするSPEED FLAT において、「孫ヲ想フ」という副題を設定し、自分たちの孫に贈るものづくりを提案する。未来に継承したいものをアイテムやシステムに落とし込み、自分たちの孫に伝えたい想いをSPEED FLATに乗せて届ける。



A4

首都大学東京 システムデザイン学部

コンビニエンスストアで購入できるような日常見慣れた商品を、内容量を変えずに「A4」サイズにしてみたら、きっとそれらの多くは薄くなり、そしてフラットになるだろう。もしかしたらそのことで我々の生活にちょっとした変化が起きるのではないか、我々はそのような小さな問いかけをデザインの糸口にしてみた。お湯を入れて3分ほど待つインスタント食材の待ち時間は短くなるのかな？カレーのルーが薄くなれば新たなレシピが増えるかな？乾いたような食感のある商品の食べ心地は変わるかな？商品を包むラップやホイルの使い方が変わるかな？我々が抱えているモノへの観念を、サイズを変えてみることで、一旦フラットにしてみることが我々の目指すところである。



拡張する照明

法政大学デザイン工学部システムデザイン学科

コンパクトなサイズから一瞬にして拡張し空間を占める、あるいは空間をつくる構造と、その転用を考える。既存の器物で用いられる拡張構造の発展、拡大すれば建築サイズにも転用できるような構造を視野に入れつつ、新たな照明器具へと展開する。照明器具はイサムノグチの「AKARI」やブルーノムナリ「Falkland」の昔より、フラットパックから巨大な光る物体へと展開する拡張構造が模索されてきた。製造や輸送に対する考察とともに、小さな物体を素早く拡張し、魅力に満ちた造形物として立ちあげてみることを試みている。



paper clothing3rd

多摩美術大学生産デザイン学科テキスタイル専攻

テキスタイルデザインの立ち位置から服を見つける。街中で手軽に買えるTシャツは30年後にはどうやって作られているのだろうか？繊維分野が誘導した産業革命は、新たなページをまた用意しているようだ。テキスタイルデザインを展望するために学生が自分の30年後を想像し、調査—考察—統合—テキスタイルデザイン—モデリングを行い、トルソオブジェではなく人が着る服の提案として、多摩美テキでは初めてとなる学内ウォーキングプレゼンテーション「歩くプレゼンテーション」を行った。

